

記 録

目 次

令和 5 年度教育実践協同研究推進委員会の活動	(117)
2023年度（令和 5 年度）研究会名簿	(119)
研究会活動記録	
国語科研究会	(120)
社会科研究会	(120)
算数・数学科研究会	(120)
理科研究会	(121)
音楽科研究会	(121)
図工・美術科研究会	(121)
保健体育科研究会	(122)
技術科研究会	(122)
家庭科研究会	(122)
英語科研究会	(122)
養護教諭・教育保健研究会	(123)
幼児教育研究会	(123)
生徒指導・教育相談研究会	(123)
道德教育研究会	(124)
特別支援教育研究会	(124)
教育実践協同研究通信（5 年度 1 号～6 年度 5 号）	(125)

教育実践協同研究推進委員会の活動

1. 推進委員会の開催

(1) 第1回推進委員会（対面）

令和5年（2023年）4月25日、第一回教育実践研究推進委員会を開催した。内容は以下の通り。

① 事業内容

- (1) 定例研究会
- (2) 弘前大学教育学部附属学校共同研究奨励費の募集
- (3) 全体会の開催1月17日（水）（全体会：全体に共通する講演もしくは、附属4校園または、各部会の研究についての交流）
- (4) 『クロスロード』の編集・発行
- (5) 学部・附属教員合同懇親会（主催は協同研）
※5月の懇親会を行わず、公開研の当日行う。

② 組織編制

委員長 宮崎充治 副統括校長が兼任
副委員長 清水 稔先生
副委員長 佐藤一幸先生（附小）
協同研通信担当
生指・教相 新川 広先生
『クロスロード』の編集・発行担当
音楽 清水 稔先生

学部研究推進委員会 委員（2年任期）教育実践協同研究推進委員会から1名選出
宮崎充治委員長が兼任

③ 公開研

- ・附属学校園が教科のローテーションにより公開研、東北附連を行う。
※ このローテーションに当たっていない研究会は個別の研究発表、研修会の開催が奨励されている。
- ・公開研実行委員会を置き、各校園校長、教頭とも協同して、公開研を実行する。
- ・4校園共通の課題、校種・教科を越えた課題研究に取り組む。
- ・今年度はスタートカリキュラム／インクルーシブ教育（附属の取り組み）

④ 報告事項

研究推進部（仮称）の設置

【目的】研究推進部を常置し、各校の研究交流・調整を図り、公開研等の研究発信の中軸となる。

【組織】統括校長、協同研正副委員長、各附属校園の研究主任・副主任等、必要に応じて招集する臨時委員（課題研究、公開研実行委員等）

⑤ 研究奨励費について

昨年通り、二期に分けて募集を行う。

研究期間を2年にまたがってとれるようにしている。経費も繰り越せるようなシステムとしている。

（その点を今回の要項には明記する。）

審議事項

- ・クロスロードの電子化
- ・附属の研究についての倫理規程の検討

(2) 第2回協同研推進委員会(令和6年1月8日)紙上

1月17日の全体会に向けて以下のことについて討議した。

① 「協同研推進委員会の中合せ」改正の提案 (添付資料あり)**第8条の改正**

協同研推進委員会委員長を附属学校園副統括校長と兼任すること。

第13条を追加

協同研推進委員会より、学部研究推進委員会委員に副委員長が兼務する。

② 合同公開研究会の計画の検討 (添付資料あり)**1) 合同公開研究会覚書及び令和6年度合同公開研究会の実施方法を提案**

公開研では、授業公開科目の公開のみを行い、課題研究を別日程とする。

2) 合同公開研究会のテーマの検討

合同テーマの位置、学部の中期目標との関係、今日におけるこのテーマの意義について検討
令和6年度 第2回の協同研終了後、協同研の懇親会を行う。

2. 各研究会を中心とした附属と学部・大学院との日常的な連携による研究活動

定例研究会は、5月10日、7月5日、11月29日、1月17日、1月31日の5回を設定した。各会はいずれも原則的には、水曜日の16:00～17:30に行われた。

1月17日は全体会とし、令和6年度の公開研の基本方針を決定し、合同で行うことを決定した。

3. 合同公開研究会の開催

令和5年度の公開研は3回目の合同開催、教科限定(社会、英語、体育)ライブでの授業公開、オンラインと対面のハイブリッドで実施した。また、課題研究として「スタートカリキュラム」、「インクルーシブ教育」、「小学校・特支の合同授業」、「ICT教育」を行った。

4. 「協同研通信」の発行、情報共有

定例研究会の予定と報告を中心に構成し、定期発行の5回発行した。また、Teams上に「All教育学部」のTeamを作成し、情報の共有ができるようにした。

5. 研究紀要「クロスロード」の編集・発行

11本の論文の投稿があった。

6. 弘前大学教育学部附属学校共同研究奨励費の募集(附属4校園運営会議と連携)

16件(前期14件、後期2件)の申請があり、全件採択した。

2023年度（令和5年度）研究会名簿

国語科研究会		
学部	市地	英
学部	鈴木	愛理
学部	田中	拓郎
学部	帆	苺基生
学部	山田	史生
小学校	石澤	香
小学校	葛西	航
小学校	高橋	憲子
小学校	高橋	眞弓
中学校	今井	礼子
中学校	小山田	朱美
中学校	駒井	陽子
中学校	樋口	薫
教職大学院	三戸	延聖

理科研究会		
学部	山本	逸郎
学部	佐藤	松夫
学部	長南	幸安
学部	島田	透
学部	岩井	草介
学部	田中	浩紀
学部	佐藤	崇之
小学校	菅原	雄貴
小学校	木村	智里
中学校	伊藤	隆
中学校	小林	和史
中学校	山田	暁
中学校	村田	正治
中学校	生田	咲智
中学校	池原	和沙

保健体育研究会		
学部	戸塚	学
学部	高橋	俊哉
学部	上野	秀人
学部	益川	満治
学部	杉本	和那美
小学校	梶	雄一朗
小学校	阿保	秀保
小学校	工藤	理姿
中学校	工藤	武志
中学校	對馬	慎太郎
中学校	羽村	麻美
特別支援	對馬	大成
特別支援	有馬	麻美

養護教諭・教育保健研究会		
学部	葛西	敦子
学部	田中	完
学部	新谷	ますみ
学部	原	郁水
学部	相馬	優樹
幼稚園	大高	景子
小学校	高橋	千晶
中学校	西岡	丸佳
特別支援	派谷	ミカ
教職大学院	小林	央美

道德教育研究会		
学部	森本	洋介
学部	福島	裕敏
学部	吉崎	聡子
小学校	工藤	愛美
小学校	浅利	善仁
中学校	佐々木	篤史
中学校	羽村	麻美
中学校	生田	咲智
中学校	駒井	陽子
特別支援	木村	亮
特別支援	附田	翔太郎
特別支援	鳴海	愛子
特別支援	千葉	麻奈美
特別支援	米持	賢
教職大学院	菊地	一文

社会科研究会		
学部	池田	泰弘
学部	大谷	伸治
学部	小岩	直人
学部	蒔田	純
学部	高瀬	雅弘
学部	小瑤	史朗
学部	宮崎	充治
小学校	今	伸仁
小学校	佐藤	一幸
小学校	櫻庭	卓也
中学校	佐々木	篤史
中学校	福井	操
中学校	工藤	廉
中学校	武田	明日佳
教職大学院	若松	大輔
教職大学院	吉田	美穂
教職大学院	中谷	保美

音楽科研究会		
学部	今田	匡彦
学部	杉原	かおり
学部	朝山	奈津子
学部	清水	稔
学部	小田	直弥
小学校	木村	麻美
小学校	山本	絵梨
中学校	齋藤	素子
特別支援	小枝	洋平
特別支援	鎌田	麻里
特別支援	木村	未希子

技術科研究会		
学部	勝川	健三
学部	櫻田	安志
学部	上之園	哲也
学部	廣瀬	孝
中学校	中嶋	真吾
特別支援	工藤	清和
特別支援	三橋	寛子

幼児教育研究会		
学部	武内	裕明
学部	松本	恵美
学部	宮崎	充治
学部	増田	貴人
幼稚園	羽賀	理
幼稚園	松山	祐子
幼稚園	竹内	芳子
幼稚園	小野	和恵
幼稚園	加藤	結衣子
特別支援	阿保	英人
特別支援	渡邊	加世子

特別支援教育研究会		
学部	増田	貴人
学部	中山	忠政
学部	天海	丈久
特別支援	大塚	亮子
特別支援	西谷	倫子
特別支援	三浦	拓也
特別支援	加賀谷	紀
特別支援	佐藤	珠美
特別支援	柏原	理紗
特別支援	千葉	嵩将
特別支援	手塚	公志朗
特別支援	佐々木	美鶴
特別支援	石橋	想

家庭科研究会		
学部	安川	あけみ
学部	李	秀真
学部	小野	恭子
学部	加賀	恵子
学部	谷本	憂太郎
小学校	佐藤	沙織
小学校	小田	桐由佳
小学校	菊地	純子
中学校	三上	真喜子

生徒指導・教育相談研究会		
学部	田名場	忍
学部	吉中	淳
学部	新川	広樹
小学校	阿保	秀歩
中学校	福井	操
特別支援	對馬	大成
教職大学院	甲田	隆
教職大学院	藤江	玲子
教職大学院	村元	治
教職大学院	桐村	豪文

算数・数学研究会		
学部	伊藤	成治
学部	澤原	雅知
学部	田中	義久
学部	山本	稔
学部	吉川	和宏
小学校	葛西	康隆
小学校	齋藤	敏一
小学校	赤垣	由希子
小学校	尾崎	珠巳
中学校	村上	和嗣
中学校	奈良岡	寛大
中学校	鳴海	文彦
中学校	八木橋	卓矢
中学校	郡司	純也
教職大学院	中野	博之
教職大学院	天坂	文隆

図工・美術研究会		
学部	出	佳奈子
学部	佐藤	絵里子
学部	佐藤	光輝
学部	塚本	悦雄
学部	富田	晃
小学校	坂本	卓也
小学校	外崎	美佳
小学校	八嶋	孝幸
中学校	鎌田	純平
特別支援	花田	光佐子
特別支援	藤田	依里子
特別支援	棟方	喜子

英語研究会		
学部	野呂	徳治
学部	A.S.Rausch	
学部	佐藤	剛
学部	土屋	陽子
教職大学院	宍倉	慎次
中学校	三上	ユカ
中学校	藤元	公德
中学校	三上	昌憲
中学校	野呂	香
中学校	梶	聡子
小学校	田中	久絵
小学校	工藤	麻乃

国語科研究会

成果と課題

国語科研究会では例年通り、読書会を通して教材研究を行った（小学校6年生で扱う伊能忠敬の伝記や、中学校2年生で扱う「走れメロス」など）。成果としては、小学校・中学校の教材について意見を交流することにより、小学校・中学校の授業でよく行われている〈話し合いを通じて読みを深める〉という活動についてより深く理解できたことが挙げられる。また〈国語教育とは何をどのように学ぶことなのか〉という根源的な問いに立ち返って考えることもできた。

授業で学ぶ読むことと読書生活とのつながりについても問題提起があったが、探究には至らなかったため今後の課題としたい。

（文責：鈴木 愛理）

社会科研究会

成果と課題

今年度も「小・中・学部間の連携」を柱に位置づけて、研究会活動を進めてきた。第1回目は、目指すべき子ども像について共有した後、公開研を見据え、附属小・中の教育目標のすり合わせを行った。第2回目は公開研にて附属小・中で行う予定の提案授業の構想について、授業予定者の報告を踏まえて、その内容について検討を行った。第3回目は公開研提案授業の報告と反省を踏まえ、今後、社会科研として目指すべき社会科授業・教材の在り方について意見交換を行った。今後も次年度の活動に向けて、小・中・学部間での問題意識の共有と活発な意見交換に努めたい。

（文責：蒔田 純）

算数・数学研究会

成果と課題

第1回は、小学校および中学校の研究主題に関する議論を行った。第2回、第3回は、実践報告とそれに関する議論を行った。今年度は、8月に第105回全国算数・数学教育研究（青森）大会がオンライン開催され、附属学校の算数・数学の先生に実践発表だけでなく、大会の運営にも携わっていただくことができた。関係の先生方のご協力に深く感謝の意を表します。

次年度の公開授業に向けた議論では、数学的結論が出た後であっても数学的に活動することがあるという価値観の実現を目指し、前提となっている条件を見直して新たな課題を見出したり、統合的・発展的に考えたりする活動を伴った実践を考えていくこととなった。

（文責：田中 義久）

理科研究会

成果と課題

第1回および第2回では、次回の合同公開研究会に向けた情報交換を行った。第3回では、学部の島田透先生、佐藤崇之がそれぞれ日本理科教育学会第62回東北支部大会（於：山形大学）で行った学会発表をもとにして、その再現をした。具体的には、島田先生「BTB溶液およびTB溶液が示す色と分子構造との関係」、佐藤「技術科との連携をめざした理科教育の考案」「INTRODUCTION OF THE MALAYSIAN SCIENCE EDUCATION AND IMPROVEMENT OF THE TEACHING METHOD」である。これらは、今後の附属学校と学部の協同の強化につながると考える。

今後も、公開研（校内研や部内研などを含む）の検討を軸としつつも、附属学校、学部双方の情報発信を行うことを考えている。

（文責：佐藤 崇之）

音楽科研究会

成果と課題

前年度に引き続き、小中特支の合同での授業を立案し、実施、および検討を通して、音楽における universal design, そして附属四校園の共通主題となっている自律についての学びの在り方を模索した。リスニングウォークによる聴取活動に基づきながら、図形楽譜によるグループによる創作を中心として、3校で連携を取りながら活動をした。これまでの実践の積み重ねから得られたこととして、児童生徒に創造行為を委ねることの重要性、環境音の聴取から創作活動をすることが自律の育成につながるなどが挙げられた。今後の課題としては、成果を検証することで一般的な知として理論化をしていくとともに、これまでの活動の記録をアーカイブ化して残していくこと、さらに、データを得るための実践の場を広げていくことが提案された。

（文責：清水 稔）

図工・美術科研究会

成果と課題

通常の情報交換に加え、第2回において附属小学校の八嶋孝幸先生より画像生成 AI を使った授業実践の可能性にかんするご発表を、第3回において附属中学校の鎌田純平先生より鑑賞教育の仕方にかんするご発表をいただいた。第5回においては附属特別支援学校の藤田依里子先生から造形作品展のご紹介をいただいた。また、来る3月に美術科教育学会（弘前大会）が学部の佐藤絵里子先生を中心に準備がすすめられている。来年度は、図工・美術で公開研究会を担当する予定であり、ますますの研究促進が期待される。

（文責：富田 晃）

保健体育科研究会

成果と課題

成果は、附小・附中・附特支・大学の参加により保健体育・健康教育の構想・実践・まとめの段階で、情報共有と意見交換を定期的に行い深化できたこと。特に、協同研統一テーマと各学校のテーマをもとに保健体育研究会として関連づけ、公開研究会で発表できた。また、健康教育を持続できおり「報告書」を作成予定である。課題は、公開研究会での協議を整理し実践者や協力者へ還す工夫が必要と考える。

（文責：上野 秀人）

技術科研究会

成果と課題

今年度は、附属学校および大学がそれぞれの学校を会場とし、現場を見ながら双方の情報を交換、最新の研究や現状、課題等に対する相互理解を深めながら、情報を共有することができた。今後、附属学校および大学が協力し合える研究テーマ等を探り、具体的な協同研究等につなげていくとともに、来年度の附属学校公開研で技術科教育の新たな方向性を提案できるよう取り組みを進める予定である。

（文責：廣瀬 孝）

家庭科研究会

成果と課題

昨年度に引き続き、共同研究奨励費の助成を受けて「調理実習における安全教育」をテーマに、IH調理器具の使用に焦点を当てた実践研究を進めた。サーモシールの特性を利用して温度変化を可視化する最適な実験方法を検討したのち、小学5年生を対象とした授業の構想・実践、及びその効果検証を行った。今後は、2年に及ぶ研究の成果を、校内外の教員研修会や論文投稿などで報告する予定である。

（文責：加賀 恵子）

英語科研究会

成果と課題

令和5年度英語教育研究会定例会では主に、今年度11月に開催された公開研にむけて、附属小・中学校が連携した授業を行うことの可能性について意見を交わした。前回の公開研での反省も活かしながら活発な議論を交わし、当日は有意義な研究授業及び協議会を行うことが出来た。公開研後の定例会では、公開研での内容について振り返り、いくつか課題点も出されたので、今後の英語教育研究に繋げていきたい。

（文責：土屋 陽子）

養護教諭・教育保健研究会

成果と課題

今年度は、附属学校園の養護教諭が学校での業務において抱えている課題や疑問点について話題提供し、それについて研究会で議論した。テーマとしては、①実習生を対象とした学校保健に関する説明内容、②学校で実施している「生活ふり回りアンケート」の内容及び集計方法、③健康診断の実施方法や子どもへの対応であったが、附属学校園の幼児・児童・生徒の状況や現場の養護教諭が抱える悩み事が研究会のメンバーで共有されたことが大きな成果であった。また、課題解決のために取り組むべき事項も見つかり、今後につながる有意義な研究会となった。

（文責：相馬 優樹）

幼児教育研究会

成果と課題

本研究会には、附属幼稚園教員と学部教員に加え、附属特別支援学校教員にも参加いただいている。本年度は、共同研究奨励費の助成を受けて、「遊びこむ子どもを育む保育～『ひとりひとりの心の育ち』に着目して～」というテーマで研究を進めてきた。第2回には武内准教授から、第3回には附属幼稚園年長組教員から、第5回には松本助教からテーマに関する発表があり、10月には県外の幼稚園への視察も行った。これらの内容について意見交換を行い、テーマの達成に向けて知見を広げることができた。来年度も充実した研究会にしていきたい。

（文責：松本 恵美）

生徒指導・教育相談研究会

成果と課題

本年度の生徒指導・教育相談研究会の活動は、附属小・中学校、附属特別支援学校から教育相談に関わる事例を提供いただき、各分野の専門的見地を踏まえて意見交換を交わす形式で実施した。成果として、いじめや不登校などの個別具体的な事例の解決策が提案されただけでなく、学校教育の構造的な課題にまで議論が及び、学校の教育相談システムを機能させるための先進的な取り組みについても共有する機会を得ることができた。課題として、附属ならではの小中学校および特別支援学校の連携の在り方について議論を深める必要があると考えられる。

（文責：新川 広樹）

道徳教育研究会

成果と課題

昨年度に引き続き、本年度も特別支援教育における道徳教育のあり方についてを中心に議論を行い、特別支援学校と附属小学校共同で、附属小学校の低学年複式学級を対象に道徳授業を実践した。「考える道徳」、「議論する道徳」が求められる中で、認知発達の段階や特性上、考えたり議論したりすることに困難がある子どもたちへの道徳教育についてどのようにアプローチするのか、本年度は実践を通じて議論を深めていくことができた。一方で小学校と特別支援教育の連携のあり方については引き続き議論を深めていく必要がある。

（文責：森本 洋介）

特別支援教育研究会

成果と課題

2023年度は、特別支援学校の教諭からの事例提供による検討（2回）と学部教員からの話題提供（1回）を行った。事例提供による検討では、グループで協議した内容を共有し、意見交換することにより、対応・支援方法の方向性を見出すようにした。事例については必要に応じて継続的に検討し改善を図ること、学校課題に応じた研究会のもち方が今後の課題である。

（文責：天海 丈久）

教育実践協同研究通信

No.1 (2023.4.28)

◆ 協同研委員会より ◆

令和5年度定例研究会の日程

第1回 5月10日(水)	第3回 11月29日(水)
第2回 7月5日(水)	第4回 1月17日(水)
東北附連 10月19-20日(木・金)	第5回 1月31日(水)
合同公開研 11月2日(木)	

本年度の協同研委員一覧

委員長：宮崎充治 副委員長：清水 稔（学部）・佐藤一幸（附属）

国語科研究会	鈴木 愛理	養護教諭・教育保健研究会	相馬 優樹
社会科研究会	蒔田 純	幼児教育研究会	松本 恵美
算数・数学研究会	田中 義久	生徒指導・教育相談研究会	新川 広樹
理科研究会	佐藤 崇之	道徳教育研究会	森本 洋介
音楽科研究会	清水 稔	特別支援教育研究会	天海 丈久
図工・美術科研究会	富田 晃	附属幼稚園	松山 祐子
保健体育科研究会	上野 秀人	附属小学校	佐藤 一幸
技術科研究会	廣瀬 孝	附属中学校	野呂 香
家庭科研究会	加賀 恵子	附属特別支援学校	加賀谷 紀
英語科研究会	土屋 陽子		

◆ 5月10日（水）第1回定例研究会のお知らせ ◆

研究会	時間	会場	部屋
国語科研究会	16:00～	教育学部	301 講義室
社会科研究会	16:00～	教育学部	4階社会科共通実習室
算数・数学研究会	16:00～	附属小学校	第2多目的室
理科研究会	16:00～	附属中学校	理科室
音楽科研究会	16:00～	教育学部	音楽科教育演習室
図工・美術科研究会	16:10～	教育学部	美術教材室
保健体育科研究会	16:00～	附属小学校	家庭科室
技術科研究会	16:10～	附属中学校	技術室
家庭科研究会	16:10～	教育学部	201 講義室
英語科研究会	16:00～	教育学部	204 講義室
養護教諭・教育保健研究会	16:10～	教育学部	養護学演習保健室
幼児教育研究会	16:00～	教育学部	幼児教育講義室
生徒指導・教育相談研究会	16:00～ (5/11)	オンライン	Teams
道徳教育研究会	16:00～	教育学部・ オンライン	教育科学資料室・Teams
特別支援教育研究会	16:10～	附属特別支援学校	図書室

◆「令和5年度 協同研主催 学部・附属教員合同懇親会」の延期のお知らせ ◆

協同研主催 学部・附属教員合同懇親会は例年（コロナ以前）5月に開催していましたが、開催日を公開研（11月）に合わせて延期することにしました。

■ 今年度も公開研究会を合同で行い、昨年同様ハイブリッド、リアルタイムの授業配信を行う方向ですすめています。

■ 講演者は武田信子先生（『やりすぎ教育』ポプラ新書等）に決定しました。武田先生は親向けにマルトリートメント（よくない子育て）を心理学者として発信するとともに、教師教育に大きな影響を与えたオランダの教育学者コルトハーヘンを日本に紹介された方でもあります。

■ 研究会ごとで、その研究にふさわしい方法での発表を行って下さい。また、小中は、今年度から 東北附連のローテーションに合わせて、次の3グループに分かれることとなりました。

A 合同公開研での発表	社会・生活・英語・保健体育・養護教諭
B 東北附連での発表	算数・数学、図画工作・美術、技術・家庭、道徳、総合的な学習
C 大きな発表がない教科	上記以外の教科

※なお、幼稚園と特別支援学校は公開研の開催を隔年としています。令和5年度は特支が公開を行います。幼稚園は課題研究などに参加します。

■ 今年度は第四期中期目標に従い、研究推進部を正式に発足させています。四校園と学部、教職大学院がより緊密に連携して、実践・教育をすすめていきたいと思います。

■ 近く共同研究奨励費のお知らせをします。コロナによる規制が緩和され、多くの研究会、学校句会が対面で行われます。ぜひ、こうした研究費も使って旺盛に他校から学び、交流を深めて下さい。

< 協同研通信に関する問い合わせ先 >
委員長 宮崎充治 (michi.miyazaki@hirosaki-u.ac.jp)
発行担当 新川広樹 (hshinkawa@hirosaki-u.ac.jp)

教育実践協同研究通信

No.2 (2023.6.28)

◆ 7月5日（水）第2回定例研究会のお知らせ ◆

研究会	時間	会場	部屋
国語科研究会	16:30	附属小学校	図書室
社会科研究会	16:10	附属小学校	第2多目的教室
算数・数学研究会	16:00	附属小学校	図書室
理科研究会	16:10	附属中学校	理科室
音楽科研究会	16:00	教育学部	音楽科教育演習室
図工・美術科研究会	16:10	附属小学校	図工室
保健体育科研究会	16:10	附属小学校	家庭科室
技術科研究会	16:10	附属特別支援学校	木工室
家庭科研究会	16:10	教育学部	201教室
英語科研究会	16:10	附属中学校	メディアスペース3
養護教諭・教育保健研究会	16:10	教育学部	養護学演習保健室
幼児教育研究会	16:00～	附属幼稚園	会議室
生徒指導・教育相談研究会	16:10～ (7/6)	附属特別支援学校	図書室
道徳教育研究会	16:00	教育学部および オンライン	教育科学資料室
特別支援教育研究会	16:10	附属特別支援学校	図書室

◆ 第1回定例研究会報告 ◆

国語科研究会：今年度の教育実践協同研究会の日程や内容について、確認・打ち合わせを行った。また、小学1年生の詩教材「いろんなおとのあめ」「あめのうた」を用いて、くらべ読み・あわせ読みをするなどして教材研究を兼ねた読書会を行った。

社会科研究会：今年度の日程等について確認した上で、公開研に向けての方針、及び、今年度の方向性について議論を行った。また児童生徒の成績評価の在り方について意見交換を行った。

算数・数学研究会：簡単な自己紹介を行うとともに、小学校および中学校の研究主題について、資料をもとに議論を行った。また、6月21日校内研授業（小学校）に関する検討を行った。

理科研究会：会員および今年度の日程の確認を行った。また、次年度以降の公開研に向けた行程について議論した。今年度の提案授業は公開研ではないが、エネルギー領域（物理）、生命領域（生物）を取り扱うことについて、情報を共有した。

音楽科研究会：会員の確認を行い、今年度の研究内容について議論をした。今年度の公開研についての日程と内容を確認した上で、前年度からの課題をもとに、今年度の方向性についての意見をまとめた。

図工・美術科研究会：新メンバーの紹介、各メンバーの近況報告、につづき美術科教育学会弘前大会(2024.3)について、特別支援学校の展覧会について、の話し合いをおこなった。

保健体育研究会：会員、本研究会の目的、年間予定の確認を行った。公開研究会への関わり方について情報共有した。保体授業実践、健康教育の継続した実践計画等について確認した。

技術科研究会：自己紹介の後、年度計画を確認した。また、廣瀬准教授より、「木材加工研究室の紹介」と題して、研究室で行っている研究内容に関して話題提供があった。その後、内容に関して、メンバーと意見交換した。

家庭科研究会：メンバー確認ののち、今年度の教育実践協同研究会の事業計画について共有した。次に、家庭科研究会の研究計画検討を行った。昨年度に引き続き「調理実習における安全教育」をテーマに、①昨年度の課題であったIHの使用に焦点を当てた実践研究を進めること、②共同研究奨励費の申請を行うことを確認した。

英語科研究会：今年度の名簿について確認を行った。年次計画について確認し、今年度は公開研の担当となっていることから、公開研に向けて現段階での状況確認と、内容についての情報交換を行った。その上で、公開研において小学校・中学校の連携をどのように示すかを議論した。現段階の可能性として small talk を使った連携が提案され、具体的な内容について話し合った。その他、副実習についての諸連絡、今年度の学会情報の共有等がなされた。

養護教諭・教育保健研究会：今年度のメンバーの確認と日程について確認した後、次回以降のテーマをどうするかについて意見交換を行い、附属学校園の養護教諭より提供された話題について討論する方向性で進めていくこととなった。また、学部教員より附属学校の保健室データを用いた研究の進捗に関する報告があった。

幼児教育研究会：メンバーの確認および会員の自己紹介を行い、今年度の年間研究計画について検討した。その後、第2回協同研に予定している大学教員からの講話のテーマである「自律」について、どのような点を意識して保育を行っていくか、どのような課題があるかなど、意見交換を行った。

生徒指導・教育相談研究会：初回のため、簡単な自己紹介の後、今後の研究会の日程と内容について打ち合わせた。今年度は昨年度を踏襲し、各校の委員から事例を募り、支援の在り方や方向性について検討していくことを確認した。

道徳教育研究会：名簿の確認を行った。本年度の計画について確認し、今年度は東北附連の担当に当たっていることを共有した。小学校では7月12日に研究授業を予定（題材は未定）。1人1コマずつ授業を行う。中学校ではローテーション道徳を2つのパターンで実施している。特別支援学校は初等部で附属小と合同で授業できないかを検討中である。

特別支援教育研究会：自己紹介の後、事例（構音障害のある児童の伝える力と相手児童の受け取る力を育むための指導の在り方）の提供を受け、グループで対応方法等について協議した。また、来年度の協同研の回数について意見交換を行った。

共同研究奨励費の第一期分で14件の申請がありました。ありがとうございます。基本的に、一部修正をお願いしたところもありますが、全件承認の予定です。第二期申請分を見込んで、それぞれ申請額より幾分の減額をし、まもなく通知をいたします。いま、少しお待ちください。

<< 協同研通信に関する問い合わせ先 >>

委員長 宮崎充治 (michi.miyazaki@hirosaki-u.ac.jp)

発行担当 新川広樹 (hshinkawa@hirosaki-u.ac.jp)

教育実践協同研究通信

No.3 (2023.11.22)

◆ 11 月 29 日（水）第 3 回定例研究会のお知らせ ◆

研究会	時間	会場	部屋
国語科研究会	16:00	附属中学校	図書室
社会科研究会	16:10	オンライン	
算数・数学研究会	16:00	附属中学校	第 1 多目的室
理科研究会	16:00	附属中学校	理科室
音楽科研究会	16:00	教育学部	音楽科教育演習室
図工・美術科研究会	16:10	附属中学校	美術室
保健体育科研究会	16:10	教育学部	3F 体育学第 2 実験室
技術科研究会	16:10	附属中学校	技術室
家庭科研究会	16:10	教育学部	204 教室
英語科研究会	16:10	附属小学校	第 2 多目的教室
養護教諭・教育保健研究会	16:10	教育学部	養護学演習保健室
幼児教育研究会	16:00	附属幼稚園	会議室
生徒指導・教育相談研究会	16:10～ (11/30)	附属小学校	図書室
道徳教育研究会	16:00	教育学部とオンライン	教育科学資料室
特別支援教育研究会	—		

◆ 第 2 回定例研究会報告 ◆

国語科研究会：高学年の「読むこと」領域および「読書」の学習指導における教材である伝記について、伊能忠敬の伝記を手がかりに、伝記を国語科で読む場合と道徳科で読む場合との違いなど、意見交換を行った。

社会科研究会：公開研にむけ、提案授業の構想について議論を行った。小中の連携のもと、更に実践的な内容とすべく検討を重ねることとなった。

算数・数学研究会：実践報告とそれに関する議論を行った。また、全国大会に関する情報共有を行った。

理科研究会：附属学校の研究をもとにして、学部教員との意見交換を行い、今後の公開研等に向けたアプローチを確認した。

音楽科研究会：昨年度の実践に引き続き、サウンドウォークに基づいた小中特支による実践授業を行う日とその具体的内容について協議をした。また、日常の実践について、お互いに情報交換を行った。

図工・美術科研究会：附属小学校の八嶋孝幸先生より画像生成 AI を使った授業実践の可能性にかんするお話いただき、メンバーで実際に AI を使って画像を制作し、意見を交換しました。

保健体育研究会：11 月 2 日開催の公開研究会の構想、単元計画、本時計画、資料取り計画について審議し情報共有した。健康教育の実践記録を作成することを確認した。

技術科研究会：特別支援学校の工藤先生と三橋先生より特別支援学校で行っている研究内容に関する話題提供を頂き、また畑の見学をした。その後、内容に関して、メンバーと意見交換した。

家庭科研究会：今年度の研究テーマである「調理実習における安全教育」の授業実践に向け、IH 調理器具の予備実験を行った。具体的には、谷本先生からご説明いただいたサーモシールの特性を踏まえ、これを利用した温度変化を可視化する最適な実験方法を検討した。

英語科研究会：公開研について、中学校、小学校よりそれぞれ進捗報告があった。その上で、小中連携の可能性について協議した。また、佐藤剛先生より話題提供された新しい単語テストの開発について意見交換を行った。

養護教諭・教育保健研究会：附属特別支援学校の派谷ミカ先生より、教育実習生を対象とした保健室の役割・保健指導についての話題提供があり、内容についての意見交換を行った。在籍する児童生徒の現状や必要な配慮がよくわかる内容であった。

幼児教育研究会：武内准教授より「幼児期の自律」をテーマに子ども一人ひとりの自律性を育てる上で意識すべき点に関するお話をいただいた。その後、テーマに関する意見交換を行い、附属幼稚園に在籍する子どもたちの自律性を育てていくための具体的な対応や介入方法についての検討を行った。

生徒指導・教育相談研究会：附属特別支援学校の對馬大成先生より、主に生活習慣の問題を抱える生徒の事例についていくつか紹介があり、参加された先生方で見立ての妥当性や介入の指針について検討を行った。

道徳教育研究会：附属小学校で 7 月 12 日に行う 2・4 年生の道徳授業（「泣いた赤鬼」を両方の学年で行う）について検討した。特別支援学校から新規に参加いただいた先生方も対面で参加し、意見交換を行なった。

特別支援教育研究会：事例（選択性緘黙の生徒への支援の方向性：生徒に求めること、教師の支援方法）の提供を受け、対応・支援方法等について協議した。

みなさま、東北附連への参加、公開研の実施、大変お疲れ様でした。
公開研は、対面での参加者総数は 200 名（学内者を含む）オンラインでも午前、午後を合わせると 200 名以上の参加がありました。講演会は保護者等の視聴も含めオンラインで 80 名にのぼる参加がありました。
その内容も、参加者からは高く評価されています。一方、外部からの学外参加者が対面で 30 名、オンラインで 30 名あまりとやはり外部の参加者の確保が課題となっています。
また、久々に行われた懇親会はこじんまりとですが、楽しい会となり、4 校園と学部、教職大学院の交流をはかることができました。

来年度は実習時期の変更など、諸要素があるのですが今年度同様 11 月の開催を目指し、令和 7 年度にはこれまでの経験をふまえて、実施時期、実施方法等を検討し直そうと考えています。ぜひ、ご意見を下さい。

次回、協同研では東北附連、公開研の担当があった教科はそのふりかえりを話し合い、簡単に報告してください。

<< 協同研通信に関する問い合わせ先 >>
委員長 宮崎充治 (michi.miyazaki@hirosaki-u.ac.jp)
発行担当 新川広樹 (hshinkawa@hirosaki-u.ac.jp)

教育実践協同研究通信

No.4 (2024.1.10)

◆ 1月17日（水）第4回定例研究会のお知らせ ◆

1月17日（水）の協同研は全体会として、対面およびTeams上でのハイブリッド形式で行います。

日時：1月17日（水）16：30～
会場：教育学部 2F 大教室 及び オンライン Teams All 教育学部での会議

【議題】

1. 「協同研推進委員会の申合せ」改正
2. 合同公開研究会の計画の検討 （添付資料あり）
 - ① 合同公開研究会覚書及び令和6年度合同公開研究会の実施方法を提案
合同公開研究会の原則の確認
令和6年度の合同公開研を授業公開に限定し、課題研究を別の日に行うという提案。
【理由】現状、1日に詰め込んでしまっているため、窮屈な日程となっているので。
 - ② 合同公開研究会のテーマの検討
合同テーマの位置、学部の中期目標との関係、今日におけるこのテーマの意義について報告し、検討。
3. 令和7年度の合同公開研究会の実施案の検討を開始の提案
令和7年度の公開研の在り方を早期に検討開始するための問題提起を行います。
4. その他

<< 協同研通信に関する問い合わせ先 >>
委員長 宮崎充治 (michi.miyazaki@hirosaki-u.ac.jp)
発行担当 新川広樹 (hshinkawa@hirosaki-u.ac.jp)

教育実践協同研究通信

No.5 (2023.1.29)

◆ 1月31日（水）第5回定例研究会のお知らせ ◆

研究会	時間	会場	部屋
国語科研究会	16:10	弘前大学教育学部	CALL 教室
社会科研究会	16:10	弘前大学教育学部	4 階社会科共通実習室
算数・数学研究会	16:00	附属小学校	第二多目的室
理科研究会	16:00	附属中学校	理科室
音楽科研究会	16:00	教育学部	音楽科教育演習室
図工・美術科研究会	16:10	附属特別支援学校	教生指導室(高等部棟)
保健体育科研究会	16:10	教育学部	体育学第2 実験室
技術科研究会	16:10	附属中学校	技術室
家庭科研究会	16:10	教育学部	204 講義室
英語科研究会	16:00	弘前大学教育学部	301 講義室
養護教諭・教育保健研究会	16:10	教育学部	養護学演習保健室
幼児教育研究会	16: 00	附属幼稚園	会議室
生徒指導・教育相談研究会	16: 10～ (2/1)	附属中学校	図書室
道德教育研究会	16:10	弘前大学教育学部およびオンライン	教育科学資料室および Teams
特別支援教育研究会	16:10	附属特別支援学校	図書室

◆ 第3回定例研究会報告 ◆

国語科研究会：中学校2年生の定番教材である太宰治「走れメロス」について読書会を行い、どのように読みを深めていけばよいのかについて討議を行った。生徒がこの作品をおもしろいと思うかどうかという問題もあるが、メロス以外の視点や語りに着目した読みの方略を検討した。

社会科研究会：公開研での提案授業の報告と反省を踏まえ、今後、社会科研として目指すべき社会科授業・教材の在り方について意見交換を行った。

算数・数学研究会：次年度の公開授業に向けて、小学校・中学校でどのような授業をつくっていくのかの方針について議論した。数学的活動には、結論が出た後にも統合的・発展的に考えたり、条件を見直して新たな課題に向き合ったりする過程が想定されており、そうした過程を重視した授業の実践を志向していくこととなった。

理科研究会：学部教員が、日本理科教育学会第62回東北支部大会（於：山形大学）で行った学会発表をもとに、その再現をして意見交換を行った。

音楽科研究会：校内において実施した研究授業の報告、及び、今年度の音楽部会のテーマに沿って行った実践授業等の報告がなされた。その上で、その成果について検討した。

図工・美術科研究会：附属中学校の鎌田純平先生より鑑賞教育に関する発表がなされ、意見交換をおこなった。

保健体育研究会：11月2日開催の公開研究会の成果と課題を共有した。附特支での器械運動の支援体制について確認した。

技術科研究会：勝川教授より、「生物育成の教材研究の紹介」と題して、これまで研究室にて行ってきた教材研究に関する話題提供があった。その後、内容に関して、メンバーと意見交換した。

家庭科研究会：「調理実習における安全教育」に関する授業実践後の児童の現れについて、附属小の佐藤先生から報告があり、これを基に協議を行った。また、2年間にわたった実践研究成果の発表の方法や、令和6年度の公開研の方向性についての意見交換も行った。

英語科研究会：第3回定例会では、11月に開催された合同公開研究会の振り返りをおこなった。協議会の持ち方や、教員の参加者数についてなど、次回への課題が挙げられた。また、今回の公開研で力を入れた、スモールトークを柱とした小・中連携の今後の方向性についても意見交換を行った。

養護教諭・教育保健研究会：附属小学校より、児童を対象に実施されている生活状況に関するアンケートについて話題提供があった。アンケート内容や結果の示し方など、どのような工夫をするより教員に興味を持ってもらえたり、在籍する児童の課題が見えやすくなったりするか意見交換をおこなった。

幼児教育研究会：年中クラスより実践の報告があった。その後、その内容を受けて子どもへの関わり方やクラス運営の仕方、保育実践の展開の方向性などについてメンバー内で活発な意見交換がなされた。

生徒指導・教育相談研究会：附属小学校にて提供された事例について、参加した教員で意見交換を行った。通常の学級での学級運営と特別支援学校における学校運営の共通点や違いについて議論が深まり、実践に結びつく有意義な議論が展開された。

道德教育研究会：2023年2月に附属特別支援学校で実施した「鬼の銀蔵」実践について附属中学校の佐々木先生が日本道德教育学会で発表した内容を報告した。また附属小学校低学年複式学級で附属特別支援学校の児童も参加して合同で12月中旬に行う「泣いちゃった」授業案について検討した。

特別支援教育研究会：未開催のつき報告なし。

<< 協同研通信に関する問い合わせ先 >>

委員 長 宮崎充治 (michi.miyazaki@hirosaki-u.ac.jp)
発行担当 新川広樹 (hshinkawa@hirosaki-u.ac.jp)